

# 高専 有明高専だより

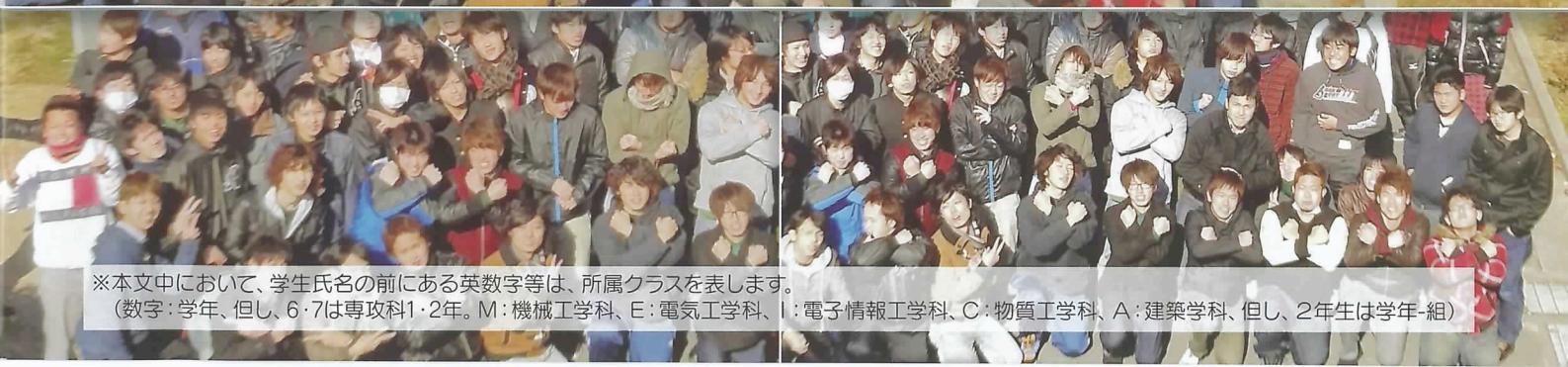
第139号

2013.2



## 目 次

立居場校長先生へ	
インタビュー	… 2・3
シリーズ	
卒業を控えて	… 4・5
人物・いま	… 6・7
有明高専	
アーカイブ	… … … 7
2012アラカルト	… 8・9
シリーズ	
研究室訪問	… … 10
企業訪問	… … 11
ロボコン・プロコン・	
デザコン	… … 12
冬季球技大会・	
ポスターセッション・	
定期演奏会	… … 13
学生会	… … 14
岱明寮だより	… … 15
トピックス	
編集後記	… … 16



※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年・組)

## 特集

# 立居場校長先生にインタビュー



5年間校長を務められ、退職を前にされた立居場校長先生に、学生会長の柿原大輝君(4M)・副会長の鳥越航君(4M)・加藤寿大君(3M)が、本校での5年間についてインタビューしました。



**柿原** 高専にいらっしゃって5年になりますが、着任された当時と現在とで変わったところはなんでしょうか？



**校長** 一言で言えば高専を取り巻く環境が明るくなつたというところでしょうか。私が着任したころは少子化の中で本校の志願倍率が1.5倍に低下し、他高専を見渡せば熊本電波高専と八代高専が熊本高専に統合されるなどの動きがありました。

熊本高専は高度化再編ということで様々な投資がされているのですが、学生数から言えば学科が統合前のそれぞれの学校で1学科ずつ減っているわけイメージとしては決して明るい面だけではありませんでした。

そのような中で私が着任してからは社会にアピールをしようということでそれまで以上に中学校訪問を先生方にお願いしました。具体的には筑後地区や熊本県北部が中心だった中学校訪問を人口が増えつつある福岡市にまで脚を伸ばしていました。その結果、次第に本校の志願倍率が上がり、現在では1.8倍程度にまで回復しました。

その後、社会的に高専を評価する声があちこちで聞かれるようになって高専を縮小しようという流れが止まつたんですね。むしろ、今後も高専の教育を充実させようという雰囲気が生まれてきた。そういう点で明るくなつたなあ、と思っています。しかし、教育の内容は今までのままで良いかというとそういうわけではなくて、時代の変化に即したものでなければならないわけです。今後その真価がとわれるだろう、と思っています。

**鳥越** 体育祭、高専祭などの学校行事をご覧になって学生にどのような印象を持たれましたか？

**校長** 学生会を中心にみなさんよくやっているなあ、というのが私の印象です。私は九州大学からこちらに来たのですが、大学には大きな学校行事として学園祭があります。しかし、学園祭では全員の学生が行事にかかわっているかというとそんなことはなくて一部しかかわっていません。高専では全ての学生がそれらの行事に関わっている。これが同窓の絆を生む良い効果をもたらしているのではないかと思います。

あと（九州）大学では体育祭はなかったですか、本校の体育祭では応援合戦が印象に残っていますね。あの大人数の演舞による統一された動きは圧巻ですね。

**柿原** 大学生と高専生を比較して感じられた違いはありますか？

**校長** 高専生は中学卒業後から、大学生は高校卒業後からということで若干の年代のオーバーラップはありますが、少し年代がずれていますので直接の比較はできません。ただ、高専生のほうが連帯意識は強いんじゃないかなと思います。とくに本校の場合は、在校生の3/4が何らかの部活動に関わっています。この課外活動が学科を超えた、また学年を超えた強い絆を生んでいるような気がしています。そして先ほどの体育祭などの学校行事も然りです。大学だと個人の活動が中心になりますのでここまで強い連帯感は生まれないでしょうね。

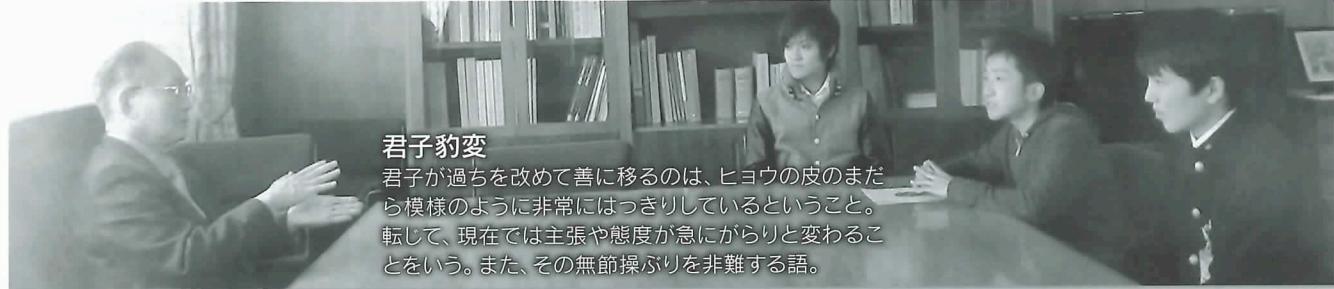
**加藤** 先生は英国物理学会等の海外でのご活動をなさついらっしゃいますが、国外だからこそ得られることって何でしょうか？

**校長** 私は若い頃に国際学会で発表をさせてもらったのですが、そのオープンな雰囲気に感激したのです。その雰囲気とは、発表に対して性別や年齢、そして教授や助手といった職位に関係なく内容が良いものは良いという雰囲気でした。当時の日本ではまだそこまで風通しが良くなかったのです。このような経験は海外の研究者と交流できたからこそはじめて得られたと思っています。



**鳥越** 確かに先生は国内、国際を問わず、先生同士の交流や全国高専交流会といった学生同士の交流に力を注いでこられたように感じています。この理由を教えてください。

**校長** まず私の座右の銘として「人は一部しか見えない」という考え方を持っています。日常で見られる世界は限られていますし、私達自身も世の中のあらゆること、もの、価値観が見えているわけではありません。この限られた視野を補い、個々人のガラパゴス化を防ぐためにには他所を知ることが重要だと思っています。私は研究者でしたが、研究の分野で言えば様々な学会や研究集会に出かけて他の先生方と議論して異なる考え、つまり「異なる視点」から改めて自分の行っていることを見つめ直して、視野を広げつつ考えを深めていくことが重要だと思いました。これは学校教育においても同様で、他高専から先生方を招いて授



### 君子豹変

君子が過ちを改めて善に移るのは、ヒョウの皮のまだら模様のように非常に非常にはつきりしているということ。転じて、現在では主張や態度が急にがらりと変わることをいう。また、その無節操ぶりを非難する語。

業していただいたら、あるいは学生同士の交流集会を開催することで、常に「有明高専で行われていることが最善なのだろうか？」と問い合わせる機会を作りたいのです。このような交流は今後も継続して行っていかなければならぬと思っています。

**加藤** シンガポールポリテクニック等海外の学校との交流の機会が増えてきていますが、今後も増えると考えてよろしいのでしょうか。



**校長** はい。増やしたいと思っています。現在は本校から春休みにシンガポールポリテクニックに希望者を募って旅費を少し助成しながら派遣していますが、シンガポールポリテクニックに限らず後援会と相談しながらこの海外派遣枠をもっと増やすことを思っています。

それから期間。今はシンガポールポリテクニックへの派遣ではせいぜい1週間くらいですが、これをもっと延ばしたい。専攻科の1年生なら夏休みなどを利用して長期インターンシッププログラムにすることで、数ヶ月単位の派遣ができるのではないかと思っています。そうすることで大学に対して高専の強みが發揮できると思います。最近、国際学会の発表で本校の学生が賞をいただきましたが、海外長期インターンシップのような機会を作ることでそのようなことがもっと増えるでしょう。しかし、そのような若者の海外派遣には経済的な支援が必要となるでしょう。そこで、現在本校の50周年記念事業として基金を募り、海外派遣助成のようなことを検討しています。高専も設立から50周年を迎えました。今後は国内外を問わずに活躍できる人材を育てるということが高専のミッションになるでしょう。

**柿原** 地域との交流に関してはいかがですか？

**校長** 大牟田荒尾地域には工学系大学がないこともあります。出前授業やロボットJリーグなどの理科教育支援が行われています。これに関わっている先生方はよくやられているな、と思います。これらの理科教育支援の頻度については現状程度で良いと思います。これ以上増やすと本校の学生の皆さんの教育がおろそかになるんじゃないかな、とちょっと心配しているくらいです（笑）。

しかし、一方で産学官の研究交流の件数についてはまだ伸

びしきがあると感じています。これについては地域の課題を卒業研究に取り入れたり、あるいは民間企業との共同研究を学生を巻き込みながらすることで地域との交流、ひいては貢献ができるのではないかと感じています。

**加藤** 最後に5年間の中で、学生気質の変化を感じられましたか？

**校長** ああ、そこは実は私の心残りでもあるのですが、私は本校で学生の皆さんに直接講義をすることがなかったんですね。あくまでも先生方からの伝聞等でしか皆さんの様子を知ることができなかつた。今にして思えば、年に一度くらい学年ごとに特別講義などを行って皆さんと直接対話できる機会を頂戴しておけば良かったなあ、と後悔しているところです。

**柿原** 高専を去られるにあたって心残りはありますか？

**校長** 在任中にサブプライム問題といった金融危機や、東北大震災が起きたために、本校への予算配分が削減されて教職員の方々の給与が減額されたり、職員宿舎の建て替えが棚上げになってしまったのが心残りと言えば心残りですが、それ以外はないです。やるべきことはやつたと満足しています。

現在、教務主事を中心に今後の有明高専を考えたカリキュラムが検討されているところです。若い先生もずいぶん入ってきました。これらの先生が今後の有明高専を担ってくださることでしょう。大いに期待しているところです。

**柿原** 高専生にこれはやっておいたほうが良いなどのアドバイスはありますか？



**校長** 在学中に好きなことや興味あることをみつけてそれをとことん追求してください。高専生は大学受験がありませんので、普通高校から大学を目指す人よりも受験勉強に費やす時間が少なくて済みます。この時間を有効に使って、勉強をするなり海外に研究発表や旅行に行くなりして様々な人々と交流してください。そして優れた考えに触れて大いに「君子豹変」してください（笑）。君子豹変ということばは割と茶化して使われることが多いですが、優れた考えを柔軟に吸収できる姿勢を表しているとも考えられます。本校が50周年を迎える今後の皆さんの活躍に期待しています。

**全員** 本日はお忙しい中ありがとうございました。



酒井

**酒井** 今日は卒業を控えた皆さんから、これまでの高専生活の思い出や卒業後の抱負など、いろいろなお話を聞かせていただきたいと思います。まずは皆さんの名前・所属学科・課外活動・卒業後の進路について教えてください(上記の通り)。それでは、皆さんこれまでの高専生活で最も印象深かった思い出を聞かせてください。

**田尻** 自分は編入生なので高専に来てまだ2年ですが、一番印象に残ったのは昨年の高専祭です。初めての高専祭で何もわからなかつたし、団長として不安な部分もいっぱいあったんですけど、最優秀学科賞ももらえたし、楽しかったです。

**三好** やっぱり5年間ラグビーを続けてきて、去年の秋の引退試合や…とにかく今までラグビーを続けてきたことが一番印象深いですね。3年の終わりのときにキャプテンになったから、2年間キャプテンをやってきたのは楽しかったし、キャプテンのきつさというのもあつたかなと思います。

**酒井** たとえば、どんなところがきつかったですか?

**三好** キャプテンとして人をまとめるということをしてこなかったので、3年から急に人をまとめろと言われて、人をまとめる難しさを学びました。

**古賀(亨)** 4年生のときの体育祭の応援団ですね。5年生と一緒に教える立場だったんですけど、下級生をまとめる難しさと教える難しさを、上の人たちと一緒に自分も学びながら、自分も教えられたかなと思いました。難しさが学べた1年でした。

**酒井** ラグビー部の主将だったり、下級生をまとめる応援団員だったり、立場は違つても人をまとめる難しさを学んだ経験は社会人になってすごく役に立つと思うので、その経験を活かしてがんばってください。

**古賀(礼)** 高専祭や体育祭もすごく印象深かったんですけど、やっぱり4年生のときのインターンシップを行ったときに初めて企業(三井化学)の人と直に話したり、同じ仕事をさせていただいたり、またそのときに自分がしていることを企業の方たちに紹介したりと、自分にとっても初めてのことが多くたくさんあったし、企業の方からも教えていただいたこともたくさんあったのでインターンシップが一番印象に残りました。

**酒井** 実際に企業で働いてみて、有明高専に在学中にどんなことを勉強したり、身につけておくことが大事だと思いましたか?

**古賀(礼)** 感じたのは、勉強も必要だなと思ったんですけど、年上の方とのコミュニケーションのとり方とかがちょっと苦手になっている人が有明高専には多いと思うので、年上の人や友達とコミュニケーションをとることが大事だなと思いました。

**酒井** 本当にその通りですね。では逆に、企業の方から、有明高専の



卒業を控えた5年生の皆さんに、思い出とこれから抱負等を語っていただきました。

5M 田尻 大樹 (M科団長/豊橋技術科学大学進学)  
 5E 三好 廣和 (ラグビー部主将/関西電力)  
 5I 古賀 亨 (I科副団長・学生会/旭化成)  
 5C 古賀 礼華 (野球部・国際交流/宇部興産)  
 5A 松尾 橋花 (写真部/専攻科進学)  
 聞き手:広報室G科 酒井 健

学生に対する要望や期待などはありましたか?

**古賀(礼)** 三池工業高校の生徒もインターンシップに来てい一緒だったんですけど、企業の方から、「三池工業の生徒は危険物取り扱いの資格取得を目指してがんばっているけど、有明高専ではそういうのは取らないの?」と聞かれて、資格をとることが大事だと思いました。

**酒井** 確か、有明高専では専門の単位を修得していくべき資格試験の一部が免除されたり、いくつかの資格が取れたりする科目があったと思うけど…。

**田尻** 知らん…。(笑)

**三好** 電気工学科ではありますけど、企業に行ったときに聞いたのは、そういった資格についても認定を受けるのは企業によっては難しいと聞きました。

**田尻** 工業高校はめちゃめちゃ資格取得をしますよ。

**酒井** そのための授業などもあるの?

**田尻** はい、あります。

**酒井** 田尻君は資格をいくつか持ってるの?

**田尻** はい、めっちゃ持っていますよ!

**全員** おおー!!(笑)

**田尻** 履歴書にいっぱい書きました。

**酒井** 履歴書に資格をいっぱい書けるって羨ましいですね…。では次に松尾さんお願いします。

**松尾** 私はいろいろあって選べないんですけど、4年生から5年生にかけての忙しさが一番印象に残っています。進路を決めるときに周りを見ていても感じたんですけど、目標に向かってがんばることの大切さをすごく学べました。

**酒井** 具体的にどのように忙しかったですか?

**松尾** そうですね、まず4年生の後期で進路を決めるときに「何をやりたいんだろう…」というところから考えて、結構迷いました。建築学科では、独特の決まりがあって、SPLの模擬試験や先生方との面接の練習で合格しないと推薦をもらえないんですけど、そのような中で4年生は製図やレポートもあり、試験も難しかったので、時間が本当に足りずに苦労しました。

**酒井** 第一志望で建築学科に入学てくる人は、将来に対してはつきりとしたビジョンをもっている人が多いような気がしますが、どうでしょうか?

**松尾** 入学するときはデザインとか設計だけだと思っていたんですけど、実際に入学してみて、それだけでなく、構造系や空調などの環境系の分野などいろいろあるのを知って、またその中で自分が何をしたいんだろうと選ぶところで迷いました。

**酒井** 専門の中にいろいろな分野の選択肢があって、それの中から自分の将来の仕事を選べることができるというは羨ましく思いま

した。では、次の質問ですが、5年間の長い高専生活の中で、「やり残したこと」や「これをしておけば良かった」ということがあれば聞かせてください。

**三好** 僕は資格取得をしなかったのを一番後悔していて、やり直したいですね。

**酒井** 電気工学科在学中に本気で資格をとろうと思つたらいくつくらい取ることができますか?

**三好** ほ、ほっ、本気!?(笑)えーっと、5・6個は取れたんじゃないですかね、普通に。でも全然取りませんでした。高専だからいいやつて、資格はとらないといけないけど資格をとるために勉強なんか、まあいいやつて思っているところがありました。



E 三好君

**酒井** 実際に後悔したのはどんな時?

**三好** 履歴書を書くときです。

**酒井** やっぱり履歴書で資格取得を書くところはある程度埋められた方がいいよね(笑)。では、古賀君お願いします。

**古賀(亨)** 学外単位とかは何もっていないんですけど、勉強…特に英語はもっと勉強しておけば良かったと思いました。TOEICを受けて、350点くらいしかとれなかったので、英語の勉強は中学校からやり直したいくらいで、もっと眞面目に勉強しておけば良かったと思います。履歴書にTOEICのスコアを書くところがあつて、350点くらいしかとつていなかつたから、先生に書かない方がいいと言われて、ちゃんとおけば良かったと思いました。

**酒井** 自分が履歴書を書いたりした頃はTOEICの点数を書いたりする欄はなかったけど、今の履歴書にはあるんですね。

**古賀(亨)** TOEICの点数と英検の級を書くところがあつて、どちらも書かなかつたです。

**酒井** ありがとうございます。古賀さんお願いします。

**古賀(礼)** 私も感じたのは資格取得のことで、インターンシップを行つた後に何か資格を取ろうと思ってがんばり始めたんですけども、やはり1年程度では2個しか取れなかつたので、今となっては1年生の時からそういった資格取得の方向で動いてたほうが良かったんじゃないかなあと思います。高学年になって、クラスの掲示板に危険物取り扱いの資格取得に関する貼り紙がしてあつたんですけど、「就職に有利になるから低学年のうちから資格を取つておいてほしい」ということを先生方から知らせてもらえていたら、自分でも早い段階からやっておかないといけないんだなという気持ちになれたんじゃないかなあと思いました。行動を起こすのが遅かつたなと思います。

**酒井** 今の話はきっと後輩たちのためになると思います。ありがとうございます。では、松尾さんお願いします。

**松尾** そうですね、課外活動についてなんですが、写真部の活動が週1回あったんですけど、そんなに大変な部活でなかつたので、勉強以外にもっとがんばれるものがあつたら良かったなあと思いました。自慢できるほどがんばつたという程の部活でもないので、何か自分がこれをがんばつたなあと言えるようなものをしたかったです。

**田尻** 自分は数学をもっと勉強しておけば良かったなあと思いました。工業高校で習う数学の微分・積分は卒業前一ヶ月くらいでちゃちゃーっと終わつてしまつて、意味とかも全くわかつていなかつたんですよ。ベクトルもやっていないし…。(笑)。高専に来たら、微分積分は専門でも出るし、物理でも使うし、数学の授業は3つあるし、「何これ?」みたいなやつばかりだったので4年生の最初は苦労しました。

**酒井** そこの苦労をどうやって乗り越えましたか?



**田尻** 自分は最初に頭良さそうな人と友達になって、放課後とかに残つて教えて言って勉強したり、本当に卒業できるのかなと思うくらい数学はわからなかつたので、家でもがつづり勉強しました。今は人並みまでになりました。

**酒井** 隠れたところですごく努力したんですね。ありがとうございます。では次に、後輩に対して高専生活をより良くするためのアドバイスがあればお願いします。

**古賀(亨)** 勉強するときと遊ぶときとの切り替えをきちんとしてですね。4年生になって、科目数が増えて付け焼き刃の勉強では間に合わなくなるので、日頃から家に帰つてから1~2時間は勉強する習慣をつけておくことが大事だと思います。それと5年になつたら卒研をしっかりとやることですね。

**古賀(礼)** 勉強以外に、高専での部活動や家に帰つてからの趣味とかに時間を費やして毎日を充実できるような生活になるように、自分の生活スタイルを一新したりして楽しく生活できればいいんじゃないかなあと思います。あと、3年生になってから、急に専門科目が増えて勉強がすごく大変だったので、がんばつて欲しいなと思います。

**松尾** 私は、後輩たちに、先生方ともっとコミュニケーションをとつてももらいたいなと思います。高専の先生方は皆さんとても熱心で、いろんなことを親身になって教えてくださり、私もそれすごく助かった面がたくさんあったので、後輩の人たちにも先生といっぱいコミュニケーションをとつてももらいたいです。勉強でわからないことがあつたら、積極的に先生の部屋に聞きに行くと良いと思います。

**三好** 何でも良いから部活に入ることと、その部活を5年間やめないことですね。きびしい先輩とかたまにいるかも知れないけど、そんなときは心の中で「お前よりも絶対うまくなつてやるぞ」という前向きな気持ちで自分から積極的に練習して上手くなつていけば部活も楽しくなっていくと思います。

**酒井** なるほど!良いアドバイスをありがとうございます。それでは最後に、有明高専に入学して良かったと思うことを聞かせてください。

**田尻** 自分は今のクラスメイトに出会えたことです。本当にめっちゃいいクラスメイトです。

**三好** ラグビーができて良かったことです。他の高校に行ってたら絶対にラグビーをやっていなかつたと思います。

**古賀(亨)** 体育祭とか文化祭とか、そういう行事を開催する側になつて、いろいろ計画を立て実施できたことです。良い経験ができました。

**古賀(礼)** 高専に入って良い友達にも巡り会えたし、すてきな先生方にも巡り会えたし、専門的な技術も身につけ、自分は中学校のときと比べて成長したなと感じることができたので、高専に入って良かったです。

**松尾** 私は自分が好きな分野の勉強ができる、その道で就職に就くこと、あとは1年生から5年生まで幅広い年代の人達と交流できるのは高専だけだと思うので、そういう交流ができたところが高専に来て良かったと思っています。

**酒井** 皆さんの話を聞くと、いろいろな人の出会いがあつて良かったという話が多かつたように思います。これからもその出会いを大切に残り約2ヶ月の高専生活を楽しんで過ごしてください。今日はいろいろな話を聞かせていただいて、本当にありがとうございました。



A 松尾さん

## シリーズ

## 人物・いま

3月で本校を去られる皆様と永年勤続表彰を受けた方にお話をお聞きしました。



### 退職教員

一般教育科 河村 豊實 教授

#### ○高専で最も思い出に残ることは?

有明高専に勤めて21年になります。来間もない頃の研修旅行で、阿蘇高岳登山があり、クラスの全員が難なく登って行く中で、遅れてやっと登り、頂上からの眺望もそこに下山した時のこと思い出されます。

#### ○高専あるいは学生に望まることは?

新しいことを学んだら必ず復習し、自分で考えよう。内容が解らない時または受け入れきれない時は、再び学んで十分時間をかけて納得できるまで頑張ろう。理解できれば嬉しい学習が楽しくなるものです。

#### ○今後について一言

教えることによって学んだことが多くあり、目からうろこが落ちたような気持ちになりました。今後は独りで学習することになりますが、夢・興味あることの実現のために「一生勉強」をしなければと思っています。



### 人事交流教員

電子情報工学科 宮崎 浩一 准教授

#### 1年間と短い期間ではありますが、有明高専では大変貴重な経験をさせて戴きました。

久留米高専からは距離的には一番近い高専ですが、人事交流で有明高専に勤務し、改めて教務や学生指導などに違いが多くあることに驚きました。混合学級の導入、転科制度の充実、高校からの編入生の積極的な受入、仮進級制度、SHRやLHRでの細かい学生指導、多数の研修旅行、学内外での多数の地域交流事業、規則正しく充実した寮生活のための細かい指導体制など、久留米高専との違いをたくさん挙げることができます。これらの違いをよく整理して、久留米高専でも取り入れた方が良いと思ったものについては久留米高専で提案したいと考えております。

最後に、私を温かく迎えてくださった電子情報工学科の教職員の皆様をはじめ、有明高専の教職員の皆様、学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。



### 留学生

#### 卒業を控えた2人の留学生に、思い出などを書いていただきました。



5F アマー君

私は中学校の時から日本に留学することを目指していて、高校卒業後やっと有明高専の3年次に編入することが決まりとても嬉しかったです。そして1年間日本語学校で勉強してから平成22年4月に東京から大牟田へやって来ました。それまでの1年間ずっと賑やかな都会に住んでいた私には、大牟田市そして有明高専がとても静かで穏やかな場所だという印象を残したこと今思い出します。それから早くも3年が経ち、もうすぐ有明高専とお別れをする時が来ます。この3年間私は日本の文化や歴史、学校や寮での毎日の生活、他の留学生達との国際的友情、そして何より高専で勉強して身に付けた知識などたくさんの経験をしました。その中にはいいこともよくないものもありましたが、それでこそ今の私がいるので決して忘れないものでしょう。今までいつも応援してくださっていた先生方とクラスの皆さん、それからここで私と出会った方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。これからは皆それぞれの夢に向かって歩む道が別れてもいつかまた会える時が来ると信じています。短い間でしたが3年間お世話になりました。

私は母国で学べない新しい技術を身につけるため、また帰国して会社を作るという明確な目標を持って、日本に留学しました。まったく日本語が分からぬまま日本に来た私は一年間日本語を勉強してから高専の3年に編入しました。高専に入ったところ講義が聞き取れなくて教科書に書いてある内容がよく理解できなくて大変でした。またレポートの書き方にも苦労しました。そこで、毎日私は辞書を使って言葉の意味を調べてそれから授業の内容を日本語で考えて理解しようと頑張りました。また実験の担当の先生に聞いてレポートの作成方法を習ううちに、だんだんと自分の考えをまとめられるようになりました。私は高専で色々なことを習いました。その中で一番大切なことは仕事の仕方だと思います。詳しくは責任感とスピリットのことです。私は先生及び同級生のおかげでとても多くの経験や新しい考え方をもらいました。また、私は日本語がなかなかうまくできていませんが高専でよくコミュニケーションができる日本人の友達がたくさんできました。高専あるいは大学では勉強・研究・実験など以外に、いろいろな行動やイベントもありますのでそれについてしっかり計画を立て、完全に両立しようと頑張る考えを持つことになりました。皆さんいろいろありがとうございます。

## 永年勤続表彰



電子情報工学科  
森 紳太郎 准教授

永年勤続20年の電子情報工学科の森先生に、思い出などをお聞きしました。

#### ○20年間での一番の思い出は?

一番の思い出は担任や授業、顧問の水泳部などいろいろな世代の学生と関わり合ったことです。人生の宝です。初めて授業をしたクラスは自由奔放、縦横無尽な感じで「放し飼いみたい」と思ったものですが、そんな彼ら彼女たちは今でも連絡を取り合い、地元や東京で会っています。水泳部の学生たちには服を着たまま荒尾市民プールに落とされたこともありますね。

#### ○これからの生き方は?

2011年3月の震災をきっかけとしてもう一度自分の「生き方」について考えるようになりました。自分の人生はもう後半です。これまで良いのか、自分が社会に残すことができるものがあるのか、など…

#### ○学生に一言

スマホばかり弄ってないで、空を見上げよう、地面に目を向こう、耳を澄ませよう。いろんなモノが身の周りを取り巻いているんだぞ。

## 短期集中 シリーズ 有明高専 アーカイブ

今回は、平成16年以降を振り返ります。独立行政法人化、外部評価、国際交流・地域連携の活発化等の大きな変化がありました。

りへが始動した。地域と連携し、地域を活性化するための様々な取組を行った。そのための新しい科目「地域協働演習」等も開設された。3年後、成果報告として、地域再生セッションが開かれた。



#### H16, 4 独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立高等専門学校へ移行

先生は教官から教員になり、勤務時間が厳格(長時間勤務禁止等)になった。また、部活の引率や学外への校務には公用車や公共交通機関を利用することになった。

#### H17, 5 「複合生産システム工学プログラム」がJABEE認定

学習・教育目標が明確化され、それに基づく教育により、本校卒業生は世界で通用する技術者であるとの認定を受けた。専攻科カリキュラムの変更や修了のための修得科目に条件が増え、当時の専攻科生は履修に大変な苦労があった。シラバス記載通りの授業が行われるようになり、成績評価は厳格化され、答案返却を含め授業の改善がなされた。また、授業改善のためのアンケートをはじめ、学生・教員連絡会(学生の意見を聞く懇談会)など様々な取組が開始され、教育の継続的な改善が行われるようになった。



#### H17, 6 中国遼寧石油化工大学との国際交流協定締結

以後毎年、化工大学の先生が来校され2週間程滞在され、本校からも2年に1回は専攻科生を含めて毎年中国を訪問している。



#### H18, 3 連絡通路(G棟-I棟間)竣工

この完成により、全ての学科棟が雨にぬれずに移動できるようになった。

#### H18, 3 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価で基準を満たしているとの評価を受ける

JABEE認定に続き、外部評価で高い評価を受けた。

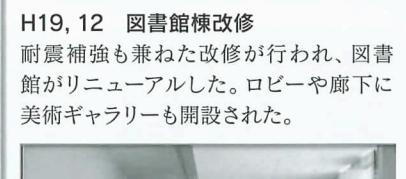
#### H18, 6 九州10高専とシンガポール・ポリテクニック3校との包括協力協定

以後、毎年、シンガポール・ポリテクニックから本校への来校と本校からの訪問を行っている。



H19, 3 大牟田市教育委員会との連携協力協定締結

地域の学校を対象にした教育支援(出前授業、教員対象の講座等)が活発になった。(p8・9参照)



#### H19, 12 図書館棟改修

耐震補強も兼ねた改修が行われ、図書館がリニューアルした。ロビーや廊下に美術ギャラリーも開設された。



#### H18, 9 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)採択

荒尾地域再生産学住協働プログラム～まちなか研究室から食・酒づくり、まちづく

H20, 3 帝京短大と大牟田市による医工連携の協定締結

# 2012 アラカルト

## シンガポールポリテック(SP)来校

12月9日(日)~18日(火)、SPの学生ら10名が来校しました。



## 一般、小中学校教員対象講座

### 一般市民対象講座(含 予定)

M科:市民大学講座「難しいけれど知れば面白い!  
～機械屋さんが見た大牟田・荒尾の炭坑技術～」  
G科:市民大学講座「インドの民族衣装を学ぶ」  
G科:市民大学講座「怒れる天神様の原型はここにあった」

### 小中学校教員対象講座(含 予定)

M・G科:大牟田市小学校・特別支援学校教育講座  
「ふりことてこの授業つくり」  
「放射線の基礎について」  
G科:大牟田市中学校・特別支援学校教育講座(理科)  
C科:荒尾市小・中学校理科教員研修



## 地域共同テクノセンター(TC)主導 地域教育支援事業

夏休み実験教室(荒尾総合文化センター)／M科  
八女まつり「ロボット操縦体験」(八女)／M科、TC  
勝立地区公民館文化祭in子供文化体験(勝立地区公民館)  
「ロボット操縦体験」／M科  
「おもしろ科学実験(折り紙建築)」／A科  
エコタウンフェア2012(大牟田市地域活性化センター)  
「ロボット操縦体験」「液体窒素であそぼう」／TC  
環境フェア2012(大牟田リサイクルセンター)／TC  
青少年のための科学の祭典大分大会2012(大分高専)／TC  
平井フェスタ2012(平井小学校)／E科、I科  
体験コーナー大集合(ロボット操縦と実演)／TC



## プロコン2012

10月13日(土)・14日(日)、大牟田文化会館で、全国高専プロコンが開催されました。



## 小中学生対象講座

### 女子中学生対象講座

理系ゴコロ講演会「女性エンジニア・研究者のステキなお仕事」・LEDクリスマスツリーを作ろう  
女子中学生によるものづくり体験 素敵なシルバーアクセサリーを作ろう!



### ロボットリーグ



### 小中学校への出前授業(含む 予定)

M科:水ってすごい!空気ってえらい!(松原中、荒尾第四中)／風力カー(荒尾第四中)  
E科:クリップモーターを作ろう(玉川小、平原小)  
C科:おもしろ科学実験(松原中、花園小)／犯人を探せ(荒尾第四中)  
A科:たのしい折り紙建築(松原中、荒尾第四中)  
G科:液体窒素で遊んでみよう(荒尾第一小、駿馬南小、笠原小、大正小、平原小、清里小)  
漢字のすごさとおもしろさを知ろう(八幡小)



### その他の講座

E科:LEGOロボ大作戦2012  
～Mr.Tからの挑戦状～  
I科:第7回エレクトロニクス  
ものづくり体験教室  
夏休み自由研究お助け教室  
E科 LEGO ロボ大作戦2012  
I科:エレクトロニクスものづくり体験教室  
夏休み自由研究お助け教室



**シリーズ** 研究室訪問  
聞き手:工科 森 紳太郎

**森山 英明 研究室(電子情報工学科)**

**現在の研究テーマをお聞かせください。**

オペレーティングシステム(OS)に関する研究を行っています。OSとは、コンピュータや携帯電話等の電子機器に搭載されている基本ソフトウェアです。例えば、Windows、Mac OS、Android、iOSなど、馴染みのある言葉だと思います。

私の研究では、コンピュータ利用者の利用環境に適した処理を行うOSの開発を目的としています。また、電子機器のハードウェアとしての性能は年々向上しているため、最新のハードウェアを最大限に活かすことのできるOSの提供も目的としています。

**研究をはじめられたきっかけを教えてください。**

大学4年生で配属された研究室での研究がきっかけです。コンピュータの動作の基本となるOSがどのようなものか興味はあったのですが、独学で勉強することが難しい分野でした。そこで、OSを専門に研究されている先生の研究室選び、研究を通してOSに関する勉強を行いました。

**今後の研究の方向をお聞かせください。**

現在の研究テーマに関して、引き続き研究を行っていきたいと考えています。特に、コンピュータの利用環境が今後どのように変化するか予想し、その環境に適した開発を行っていきたいと考えています。また、高専生の学習支援に関する研究も新たに行っていきたいと考えています。

**有明高専に来て第一印象はいかがだったでしょうか。**

有明高専に初めて来たときには、制服と私服の学生が一緒に登校している姿に驚きました。また、授業を通して学生と触れ合ってみて、有明高専の学生は素直で活発な学生が多いという印象を受けました。

**学生へのアドバイスをお願いします。**

何事も、一度やると決めたことは真剣に打ち込んで、最後までやり通してください。物事を始めたときの高い志を継続することができれば、仕事や研究で良い結果を出すことができるはずです。



今回は、電子情報工学科の森山英明先生と一般教育科の青影一哉先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

**青影 一哉 研究室(一般教育科)**

**現在の研究テーマをお聞かせください。**

対称群の周辺の代数の表現とその組合せ論を専門に研究しています。対象物に数学的構造を入れることができると、それを表現といいます。ある構造をもった対象物が複雑で分かりにくいとします。この表現という手法はより分かりやすいものに構造を写し、そちらを調べることで元の対象物の情報を引き出そうとする考え方です。

特に対称性という構造に着目しその諸性質を調べることを目的としています。

**研究をはじめられたきっかけを教えてください。**

学生から先生の専門は何ですか?と聞かれることがあります。その時は、学生が喜ぶのでアミダクジ(チカン)と答えるようにしています。アミダクジとはご存知のように橋を一つ架けると物が一組入れ替わるようなのですが、数学ではこの物の入れ替えを許してよい性質のことを対称性といいます。何故だか不明ですが物理現象の背後には必ず数学的体系が存在し、きれいな理論によって統制されています。この対称性は自然科学の現象に度々姿をあらわします。

院生の時に読んだ非線形偏微分方程式の佐藤理論に衝撃を受け数学の道に進もうと決心しました。

**今後の研究の方向をお聞かせください。**

多くのことが多くの方々によって調べられ、出来る仕事も少なくなっていますが、こんなに遊べるおもちゃは他にはないと思っています。今後自分の研究の方向性が変わることはないと私は思います。

**有明高専に来て第一印象はいかがだったでしょうか。**

学科毎に雰囲気も違うので何とも言えないですが、元気!!という印象です。ただ少し節度を守った方がいいですかね。人懐っこい学生が多いのかわいいです。

**学生へのアドバイスをお願いします。**

今は自分の好きなことを自由にできる限られた期間です。たくさんのことについて興味を持ちチャレンジしてみてください。待っているだけでは何も見つからないですよ!



**シリーズ** 企業訪問  
一卒業生を訪ねて

**電気化学工業(株) 大牟田工場**  
〒836-8510 福岡県大牟田市新開町1

聞き手:E科 森山 賀文



今回は、電気化学工業株式会社の大牟田工場にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。お話をくださったのは、宮川義崇さん(E科44期)です。

**森山: まずは仕事のことについて教えてください。こちらの工場ではどのようなものを作っているのですか?**

宮川: この工場は化学工場で、有機系素材、無機系素材、電子基盤などを製作しています。私が所属している部署はエンジニアリング部の電気部門で、モータが回らない・制御盤の調子が悪いなど、故障した機械の修理や維持管理を行っています。特殊なものとしては、自動火災報知器や消防設備も管理しています。一昔前は故障してしまった機械を修理することが多かったのですが、現在はこれまでの経験や実績をもとに、故障の頻度に応じた定期的な点検を行い、故障する前に部品の交換を行っています。

**森山: 就職して2年目ですね。現在の仕事内容を教えてください。**

宮川: 主に電動機の点検を行っています。具体的には、止まってしまうと生産ライン全体が止まってしまうような重要電動機や、巻線形電動機などを、異音がないか、振動が大きすぎないか点検します。大型のものは壊れてしまうと対応に時間がかかるので、事前点検が重要になります。今は火災報知器に関する勉強を行っています。

**森山: 仕事をする中で苦労したことはありますか?**

宮川: 稼働中の機械は、内部を見たり触れたりすることができないので、音や目視だけで異常を発見しなければなりません。高専時代はモータの音を意識して聞くことはなかったので、触らずに音だけで判断するのが難しかったです。

**森山: 次に学生時代のことについて教えてください。高専で得たものは何ですか?**

宮川: 友人です。高専での生活は中学校より長く、たくさん思い出があります。また、勉強以外の経験も大切です。例えば、危険物に関する資格を取得する際、ガソリンスタン

ドでアルバイトをした経験が役立ちました。授業で学ぶ知識だけでなく、幅広い知識が必要だと感じました。

**森山: 習った科目の中で役に立っているものがありますか?**

宮川: 電気機械の勉強がとても役に立っています。現在の仕事と直結しているので、今も教科書を引っ張り出して勉強しています。先輩方から「高専での勉強は実践的なものが多い」と言われました。勉強と仕事を分けて考えるではなく、リンクさせることができると良いと思います。

**森山: 会社の中で有明高専出身者の集まりなどありますか?**

宮川: 高専会という組織を作っています。有明高専だけで20~30名おり、物質工学科(工業化学科)2期生など幅広い年代の人たちが集まります。様々な部署で働いており、電気は珍しいようで、先日、名前を覚えていた先輩から直接電話で仕事の依頼がありました。

**森山: 最後に、在校生へのメッセージをお願いします。**

宮川: 勉強をがむしゃらに頑張っておいて欲しいです。どうせ使わないだろうと手を抜くのではなく、詰め込んでおくだけでも良いので。いつか役に立ちます。また、どの会社に入つても、そこでどうするかが大事だと思います。今の段階では進路をなかなか決められなくても、入つてからこれっていうのを決めてそこを追及するのが良いのではないかと思います。

**森山: 本日は、お忙しいところお話を聞かせていただき、ありがとうございました。**



## ロボコン地区大会を振り返って

振り返ってみると今年のロボット研究同好会の活動は、力不足を実感した活動だとチームリーダーの私は感じました。私達の部活には、5年生がいません。部の技術力が厳しいことは薄々感じていました。そのせいか、度々ロボットを作っていく過程で、時には先生方と時には部活動の仲間と衝突しました。それでも、ロボットが完成したのは、大会まで休まずに部活に参加してくれた下級生の存在が大きかったと思います。

私たちのロボットは、独自のアイデアが評価され、全国大会への切符を手にしました。ですが、会場では技術力の差をまじまじと痛感させられました。そして、全国に行く強豪校は、下級生への技術の伝承、そして何より基礎を磨いた上で、自ら新たなことに挑戦する姿勢を見ることができました。

それは、私たちの部活に足りないものを見つけることにつながり、来年への課題がはつきりと浮かび上がった一年になりました。



3M 別府 幸弥



Aチーム：力二球

## ロボコン全国大会に出場して

今年のロボコンのテーマは「ベスト・ベット」というもので、私たちのチームはウサギをモチーフにしてロボットの製作に取り組みました。九州沖縄地区大会が終わってから全国大会までの一ヶ月で、センサーを増やしてより細かい指示を出せるようにしたり、レーザポイントを使ってボールを投げるときの照準をわかりやすくしたりなど、ロボットの性能を上げるために様々な改良を行ってきました。大会の前にはロボットが動かなくなるアクシデントがありました。当時は、問題は解決し、会場の方々にロボットをアピールすることができました。結果は残念ながら1回戦敗退となりましたが、審査員の方々にアイデアを評価していただき、安川電機の特別賞をいただくことができました。

来年は今年の経験を生かし、もっといいロボットを作ろうと思います。

最後になりましたが、アドバイス、応援をいただいた先生方や技術職員の先生、OBの方々に心より感謝いたします。

## デザインコンペティション2012

A科 小野 聰子

11月10日(土)・11日(日)に、「全国高等専門学校デザインコンペティション2012 in 小山」が白鷗大学東キャンパスで開催されました。今年度は、長岡・長野・群馬の3高専の協力のもと、小山工業高等専門学校を主管校として、「デザインが起つ」をメインテーマに、環境・構造・空間・ものづくりの4部門でコンペティションが実施されました。

環境・空間・ものづくりの各部門については、本年度も予選通過者がいなかったため、本校からは構造部門のみへの出場となりました。本校は、校内予選会で優勝したチームが構造部門の全国大会に出場していますが、本年度は建築学科5年生チーム(武川・永田・吉田)が全国大会へ出場しました。

今回の構造部門のテーマは、「デザイン・コストに配慮した橋～単純支持橋の軽量化コンテスト～」で、一定の耐荷性能(60kg < 耐荷性能 ≤ 65kg or 70kg)を有する単純支持橋の模型を製作して、製作模型のデザイン性および軽量化を競う内容でした。ヒノキ材および指定された接着剤であれば、使用する各部材の断面形状などに制限はありません。本校チームは、接合部分を工夫した逆アーチ形状の模型を製作して、「萩尾橋」という作品名で大会に挑みました。

開催日初日、午前は総合受付や模型の仕様確認があり、午後から開会式や本校チームと審査員などの質疑応答でした。また、本年度は、新しい試みとして、製作した模型を学生間で評価する『相互評価』がありました。



仕様確認の様子



相互評価前の様子

## 冬季球技大会

12月12日(水)に冬季球技大会が開催されました。

晴れた冬空の下、サッカー、男子バスケットボール、女子バスケットボール、ハンドボール、卓球の5競技が行われ、専攻科生だけではなく、教職員の方々も学生と一緒にになって汗を流しました。



最優秀クラス	4E
優秀クラス	3E
優勝	MVP
サッカー	専攻科
男子バスケ	3M
女子バスケ	4C
ハンドボール	3E
卓球	1M



専攻科長 吉田 正道

## ポスターセッション

専攻科の重要な行事である「ポスターセッション」が1月17日(木)・18日(金)の両日に開催されました。本行事は、専攻科2年生(第11期生)32名の特別研究内容を各学生が1枚のポスターにまとめて掲示・説明することにより学内外に発表し、その成果を広く知りたいことを目的とするものです。

今回は、来場者の利便性や、室内的快適性を改善するため、会場を従来の総合研究棟から合同教育南棟合同講義室に移しました。また、今後、優秀なポスター発表の表彰を行うための検討資



吹奏楽部定期演奏会

吹奏楽部は1月26日(土)に、大牟田文化会館大ホールで第44回定期演奏会を行いました。有明高専が「駆け」抜けてきた50年の歴史とともに、歩んできた吹奏楽部。私達がこの定期演奏会に「懸け」た思いが、皆様へと繋がる架け橋となり、私達の音が皆様のもとへ「翔け」ていくように、との願いを込めてテーマを「かける」としました。

インフルエンザによる学年閉鎖のため1年生は欠席となりましたが、彼らの分まで演奏を楽しもう、定期演奏会を成功させよう、とより部員の团结を深めて演奏会へ向け努力することができました。

天候も悪い中、ご来場いただいたお客様、本当にありがとうございました。また、このような演奏会を続けられるのも先生方、企業、OB・OG、保護者の皆様のお陰です。部員一同これからも日々精進し、この定期演奏会を続けていきますので、これからも吹奏楽部をよろしくお願いします。



## 新学生会



### 学生会長 4M 柿原 大輝

今回、新学生会会长に就任しました4年機械工学科柿原大輝です。

この度、皆さんの支持のおかげで会長に就任することができ、大変嬉しく思っています。一方で、会長としての責任の重さを感じています。前年度は副会長として学生会行事の運営や補佐に携わり、高専祭では設営パーティーリーダーとして多様な問題にも迅速に対応するなど、多くの困難な壁を乗り越え、たくさんの経験を積むことができました。この経験をもとに、学生会役員を始め、学生全員で今後の学校生活をより良いものにしていくことができるよう努めていきたいと思います。

さて、数年前から問題となっている校内・学校周辺のゴミのポイ捨ては、残念なことに現在も続いている。このゴミ問題は結果的に売店の販売品目の制限に繋がっています。学生会ではゴミ問題を解決するためにポイ捨ての原因は何なのか、どのように対策を取ればよいかということを考えましたが、解決には皆さん一人ひとりの意識と協力が必要です。売店の制限解除のために校内のみならず校外でもゴミのポイ捨てやポイ捨ての原因ともなる食べ歩きをしないようにして、皆さんで協力し注意し合って改善していくましょう。

また、今年の学生会では局長だけで仕事を行うではなく、局員をフル活用して全体で仕事が回せるようにしたいと思っています。時には、学生全員で取り組んで、学校全体で意識付けを行っていきたいと思います。

最後に、今年度の学生会役員を紹介します。今年度の役員は43名と昨年より少ないですが、効率良く、内容の濃い活動ができるよう頑張っていきたいと思います。

有明高専を良くするためにも、皆さんのご協力をお願いします。一緒に頑張っていきましょう。

平成25年度学生会役員		
会長	4M 柿原 大輝	
副会長	4M 鳥越 航	3M 加藤 寿大
体育局	4I 徳島 光一	4M 野村 一貴
	2M 今村 匠 (2-2)	1M 西嶋 凉平
	1M 光延 拓也	1M 山村 幸大
放送局	3I 日高 大成	2I 中嶋 智保 (2-1)
	2C 野田 望由 (2-5)	1I 溝口 起司
文化局	4I 東 優子	4I 米野 紗華
	3A 青嶋 嵩	2M 川口 元貴 (2-2)
	1E 西村 アロン	
会計局	4E 宮原 佑輔	3I 安部 成就
	2M 江上 俊 (2-1)	2A 吉山 玲奈 (2-3)
	1I 荒木 涼	
涉外局	4A 百田 直美	4E 江中 祐貴
	3E 小田原 裕	2M 西久保 友紀(2-2)
	1A 川西 智大	
報道局	3A 堀 大智	3A 森 康貴
	3E 木下 溪太	2M 西津 優太 (2-5)
	1I 新垣 淑陽	1A 島田 恵豊
	1A 北口 修伍	
整美局	3M 堀 翔太	4A 池田 辰弥
	4E 村上 めぐみ	3M 竹下 雄貴
	2M 高尾 晃平 (2-1)	1E 池上 天翔
	1A 南里 泰之	



## 学生会役員研修

### 学生主事補 岩本 達也

12月8日（土）、新旧の学生会役員13名と学生主事室4名により、学生会役員の研修が行われました。

各人の自己紹介の後、旧役員から任期中の反省点や新役員への要望を挙げたり、新役員からの抱負などを述べたりと新旧役員の引き継ぎが行われました。続いて、新学生会長の4M柿原君より、定例会の開催やあいさつ運動の実施、校内のゴミのポイ捨て問題に対する取り組みなど、今後の活動計画についての提案がなされました。ゴミのポイ捨て問題では、売店の販売品目の見直しによって全体的なポイ捨てはかなり減ったが、依然としてゴミが落ちている場所があるなどの現状確認や、校内に散乱するゴミを減らすために学生会としてどんな取り組みができるか、ポイ捨てをなぜしてしまうのかなど、改善に向けた活発な意見交換が行われました。その後、平成25年度の学生会行事を確認し、日程を決定しました。学生主事室からは、平成25

年度の体育祭は50周年記念大会として開催するので、学生会と体育祭実行委員会が中心となり、成功に導いてほしいとの協力依頼がなされました。

平成25年度、本校は開校50周年を迎えます。新学生会が中心となり、この節目の年にふさわしい活動を開催してくれる事を期待します。



## 岱明寮だより

### 寮長あいさつ

#### 4M 坂井 佑輔



こんにちは。新しく岱明寮の寮長になりました4年機械工学科の坂井佑輔です。

ここ数年寮生の数が増加傾向にあり、1年生に対する指導や、各学年に対する指導が厳しくなっていますが、寮という環境で同級生や先輩との共同生活を通じ、社会生活に必要なことを学ぶことを目標としていますので、一緒に頑張っていきましょう。また、寮生がより良い寮生活を送れるよう、寮生会を中心として皆さんと共に寮を改善していくうと思いますので、1年間よろしくお願いします。

#### 寮生会役員(平成25年1月21日現在)

寮長	4M 坂井 佑輔	4E 村上 めぐみ
副寮長	3M 末永 碩	副寮長
会計	4E 宮原 佑輔	3C 蒲池 恭明
監査	4E 尾上 正文	4A 藤 美
報道	4M 喜多 亮氏	3M 四ヶ所 祐至
給食	4E 鬼塚 大悟	4A 藤本 ちひろ
管理	4A 松下 建介	4M 黒澤 華奈
薬	4E 明石 祐嗣	2A 吉山 玲奈

棟長	古川 正明	副棟長
杏葉若桜	中山 卓也	庄鷗 佳弥
銀葉	現1年生から選出	現1年生から選出
紅葉	3M 末永 碩	3M 大田 敏大
青葉	4E 村上 めぐみ	4I 東 優子
若桜	3M 末永 碩	3M 大田 敏大
指導寮生	3M 宮崎 勝三	3E 原口 樹一
(桜)	3C 江副 さき	3A 衛藤 優希

\*棟長・副棟長・指導寮生は平成25年4月から平成26年3月まで

### テーブルマナー講習会



12月1日（土）、卒業を控えた5年生を対象に、寮生の毎日の食事でお世話になっている株式会社魚国総本社の皆さんに、テーブルマナーの指導していただきました。

これからいろいろな場面で経験していくと思いますが、上品な食べ方、このような場合どのようにしたらよいかなど、肉料理を例に丁寧に説明していただきました。

参加者27名は慣れない手つきではありましたがあくまで真剣に取り組み、講習会後も講師に質問を行うなど、関心の高さが感じられました。

### 岱明寮生 vs インフルエンザウイルス

1月19日（土）に予定されていた送別行事（予餞会）が、インフルエンザ流行のため中止となりました。最近では、新型インフルエンザが流行した3年前に中止になったのが記憶に新しいところです。

予餞会は寮生会が企画運営し、2部構成で行われます。第1部は校長・主事・5年担任の先生方を招待し、夕食会形式で会が進められます。第2部は、卒寮して行く5年生のために、1・2年生が劇やコントなどのネタを自分たちで考え、全寮生の前で披露し、どのチームが面白かったかを競い合います。1・2年生は、創造力を働かせアイデアを出し合い、勉強以上に頭を使わなければなりません。

準備もほぼ終わりに近づいている3連休中や特に3連休明けに、体調不良での帰省者や感染者が増え続け、寮務主事室に苦渋の決断が迫られました。3年前は、体育祭前や後期中間試験前に1年生が学年閉鎖や学級閉鎖となり、予餞会の時期には全学的に

感染者が出てきて、中止となりました。今年度は、冬休み明けすぐに、1M、1E、3Mの寮生を中心に一気に感染者が出ました。冬休み課題試験の疲れと夜中の睡眠不足が原因と思われます。1月16日（水）の時点でのインフルエンザ感染・疑いで帰省していた寮生は16名、まだ潜在的な感染者がいることが予想され、予餞会中止に至りました。その後、18日（金）の夕方までに、新たに17名が感染または疑いで帰省しました。恐るべし、インフルエンザウイルス。

感染者のほとんどが1年男子です。いろんなことを経験して、集団生活の知恵を身に付けていかなければなりません。期末試験、5年生は卒業研究のまとめ、などなど、インフルエンザに負けてなんかいられません。インフルエンザに負けることなく進級、卒業、卒寮できることを願います。

頑張れ寮生！負けるな寮生！

### 定員オーバー～違反点数制度～（通学生の皆さんへお願い）

居室数に対して在寮希望者が多い時には、寮則違反や通学時間を考慮して在寮許可選考を行っていましたが、希望者の増加により、23年度より他高専で導入されている違反点数制度を導入しました。違反点数と合わせて、通学時間・遅刻回数・急激な成績低下などを考慮して総合的に判断し、在寮更新許可者を寮務委員会で決定します。

違反項目の中には自宅通学生に関わるものもあります。寮の居室

に無断で立ち入ることは禁止されており、寮事務室または宿直室を訪ねて訪問先を告げ、棟内に立ち入るようになっています。そうしなければ、寮生自身に違反点数がついてしまいます。自宅通学生の皆さんにはあまり知らないと思いますので、寮生には訪問者が手続きを済ませてきているかどうか、済ませていなければ済ませて来るよう、訪問者に伝えるようにと周知していますが、通学生の皆さんも自ら手続きを済ませて寮生を訪問するようお願いします。



## 専攻科一泊研修

専攻科長 吉田 正道

前年度まで、4月に「リフレス大牟田」で行われていた専攻科新入生1泊研修に代わり、今年度は、工場見学を主体とした研修旅行を11月に実施しました。この研修の目的は、専攻科1年生の学生間および教員との親睦を深めることに加え、本科のときには見ることができなかった他学科に関連する工場を見学し、学際的な見学体験をすることです。今回は、広島方面に出かけ、貨幣製造工場（機械系）、酒類醸造所（物質系）および原爆ドーム（建築系・耐震）と厳島神社（建築系・古建築）を見学しました。引率教員も機械系（吉田）、物質系（小林）および建築系（小野）と専門が分かれ、特に建物見学では、小野先生が原爆ドームにレーザーポインターを照射しながら詳しい説明を行い、一般の見学では得られない体験に学生も興味深げでした。また、往路のバス車中でのゲーム大会や宿での懇親会も学生主導で大変楽しい時間を過ごすことができ、高専学生生活に貴重な1ページを記すことになりました。



## 献血活動で表彰

学生主事 明石 剛二

本校の長年の献血活動に対し、平成18年福岡県からの感謝状に続き、今回、日本赤十字社から金色有功章が贈られました。

献血事業への本校の協力は、第1回目が昭和41年11月、第2回目が昭和46年1月で、その後はほぼ毎年、40年以上にわたり行っています。これからもご協力をお願いいたします。



## 4A川島さんが特別表彰

4A川島茜音さんが、全国高専体育大会の陸上競技女子砲丸投げで、3年連続全国優勝という快挙を成し遂げたことにより、全国高等専門学校連合会から特別表彰を受賞しました。



## ボランティア愛好会が九州ブロック賞

ボランティア同好会は、今年度のボランティア・スピリット・アワードで、2年前のコミュニティー賞に続き、今回、九州ブロック賞を受賞し、全国表彰式＆フォーラムに招待されました。



## 編集後記

広報室 牛島 直史

通勤途中で、梅の花をちらほら見かけるようになりました。梅の花の花言葉には、高潔、忍耐などがあるそうです。寒風吹きすさぶ中、ひっそりと花を咲かせる梅の木に、凛とした力強さと高潔さを見出しているのでしょうか。

映画の中のワンフレーズに、「人間の持つ高潔さとは、肩書や名声を守ることではない。自分の身の保身を考えず、誰かのために行動できる勇気である。それが、リーダーの持つべき資質である。」とあります。

人生の岐路に立たされた時、人はみな安易な道を進もうとします。これから社会へ出ていくみなさんの前にも、数々の選択が待ち構えています。いずれの道にも多少の困難が待ち受けているでしょう。そんな時、ふと立ち止まり考えてみてはいかがでしょうか。どんな道を進むにしろ、自分が思う道を信念を持って進んでいてください。

有明高専だより 第139号

平成25年2月18日

編集：有明高専広報室  
発行：有明工業高等専門学校  
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-8861 (学生課)  
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を-Here are Lights-

